

大会名 Competition	第76回全国高等学校バスケットボール選手権大会 富山県予選			場所 Place	富山県西部体育センター
NO. 特1	日時	2023年11月5日	9:30		

高岡第一

富山龍谷



63 18 1Q 12
10 2Q 21
14 3Q 17
21 4Q 20
● / OT / ○

富山龍谷は3年連続30回目の優勝

Crew Chief Umpire 1 Umpire 2

山田 隆介 上田 遼馬 嘉志摩 有希

Table Officials

砺波

高岡第一

NO	PL-IN	選手氏名 Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
1	4	× 千保 輝星	17	0	6	5	4
2	5	× 四十崎 伽羅	17	3	3	2	2
3	6	× 竹倉 羽蘭	13	0	6	1	2
4	7	× 才川 千遥	13	0	5	3	4
5	8	× 稲葉 桜子	0	0	0	0	3
6	9	比嘉 琉華	0				
7	10	/ 竹内 暖莉	3	1	0	0	2
8	11	/ 寺西 華音	0	0	0	0	0
9	12	住吉 香梅	0				
10	13	堀田 結暖	0				
11	14	栗田 真央	0				
12	15	竹村 杏莉	0				
13	16	杉林 愛羅	0				
14	17	太田 彩巴	0				
15	18	茅原 結愛	0				
コーチ 米田 春菜							
Aコーチ 菅原 哲郎							
合計			63	4	20	11	17

富山龍谷

NO	PL-IN	選手氏名 Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
1	4	× 中野 真優	22	1	7	5	1
2	5	× 堀田 小晴	17	3	4	0	1
3	6	× 中村 そら	10	1	2	3	4
4	7	/ 窪田 羽杏	0	0	0	0	3
5	8	赤木 なるみ	0				
6	9	× 小幡 明日奏	14	2	2	4	2
7	10	河崎 瑠那	0				
8	11	/ 川西 渚紗	0	0	0	0	2
9	12	/ 笹木 瑠那	3	1	0	0	1
10	13	廣岡 一花	0				
11	14	赤坂 菜緒	0				
12	15	× 伊藤 想乃香	4	0	2	0	0
13	16	黒田 紗矢	0				
14	17	新崎 馨	0				
15	18	/ 竹部 美咲	0	0	0	0	0
コーチ 佐藤 肇							
Aコーチ 有山 景子							
合計			70	8	17	12	14

戦評

※ ×:スターター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

高岡第一高校ボールでスタート。高岡第一は、#4のドライブで開始早々に先制点を取ると、#5のドリブルアタックなどで得点を重ねる。一方の、龍谷富山は#15の献身的なリバウンドで何度もシュートチャンスを作り、粘り強くついていき、#5の3Pシュートで1点差と迫ったところで、高岡第一タイムアウト。タイムアウト明け、高岡第一#7のドライブ、高岡第一#6の豪快なブロックなどの好プレーが続き、高岡第一6点リードで第1Q終了。

第2Q開始。両チームともに、オールコートマンツールのディフェンス。龍谷富山は、開始早々の3Pを決め4点差とするが、高岡第一#5の3Pやドライブで7点差と点差を広げられる展開となる。しかし、龍谷富山は体を張ったディフェンスから、速攻や3Pで得点を重ね、#9の3Pで残り4分で逆転に成功。高岡第一も#5のゴール下での力強いプレイで食らいつく。残り2分、龍谷富山は#4のキレのあるドライブで3点差と広げたところで高岡第一タイムアウト。タイムアウト明け、龍谷富山はゾーンディフェンスに切り替え、ターンオーバーを誘発。高岡第一は#5の3Pなどで粘るが、最後まで流れを渡さず龍谷富山5点リードで前半を折り返す。

第3Q開始から両者一步も譲らず、一進一退の攻防が繰り広げられた。残り2分半、龍谷富山の気迫あふれるディフェンスに、高岡第一24秒バイオレーション。ここで、高岡第一たまらずタイムアウト。高岡第一はタイムアウト明け、#6のドリブルアタックで2点返すも、すぐさま龍谷富山#4のドライブからのバスケットカウント、ワンスローも冷静に決めて5点差にする。このピリオドも、強度の高いディフェンス、リバウンドを続けた龍谷富山がリードを広げ、8点リードとして3Q終了

第4Q開始。なんとか流れを掴みたい高岡第一は#4バスケットカウントなど果敢に攻撃を仕掛ける。対する龍谷富山は#9の3Pで流れを渡さず点差をキープする。両チームとも、積極的なオフェンス、強度の高いディフェンスでチームファールがかさみ、フリースローを打ち合う展開となる。1試合通して、コート選手、ベンチ、応援席が一体となって戦った龍谷富山が最後までペースを掴み、インターハイ予選のリベンジを果たし、ウインターカップへの切符を手にした。